



学びのレポート 2023



本レポートについて

i. 本レポートの目的

本レポートは、本学が実施している「学生生活アンケート」の調査結果をもとに、創価大学学部生（以下、創大生）における学びに関する分析結果を各号ごとに観点を変えながら報告をしていきます。

本レポート結果をもとに ①本学内において創大生の学びの共通理解を生み出すこと、②調査回答者である創大生のみなさんが自身をふりかえり、これからの学びを考える一助となること、③自分以外の創大生の学びについて知ること、自らの学びへの刺激となることを目指していきます。

ii. 「学生生活アンケート」の概要

大学における諸活動の点検・評価とそれに基づく改善・向上の取り組みによる「教育の質保証」が求められている中、「学生生活アンケート」は次の事を目的に掲げています。

1. 創大生における日常生活の実態把握（意識・行動）及び点検
2. 学生意識の側面からの大学運営の点検
3. グローバル教育に関する点検および改善策のための情報収集
4. IR データベースと統合し、成績や就職状況等の学修成果に関する分析

上記の目的のもと、「学生生活アンケート」はアンケート実施時において本学に在籍する創大生を対象に悉皆調査として、本学の学習支援ポータルを經由してオンラインで実施しています。直近 2023 年度から 2020 年度のアンケート回収率は表 1 の通りでした。

表 1 学生生活アンケート 回収率

実施年度	①対象者数	②回答者数	③全問回答者数	回答率 (②/①)	全問回答率 (③/①)	全問回答 到達率(③/②)
2020 年度	6,953	3,366	3,059	48.4%	44.0%	90.9%
2021 年度	6,780	3,674	3,171	54.2%	46.8%	86.3%
2022 年度	6,423	2,972	2,604	46.3%	40.5%	87.6%
2023 年度	6,110	3,274	2,756	53.6%	45.1%	84.2%

なお、学生生活アンケートの調査結果概要は、下記の本学 HP にも掲載して公開しており、学内外問わず誰でもアクセスして参照することが出来ます。

学生生活アンケート：<https://www.soka.ac.jp/about/disclosure/studentsurvey/>

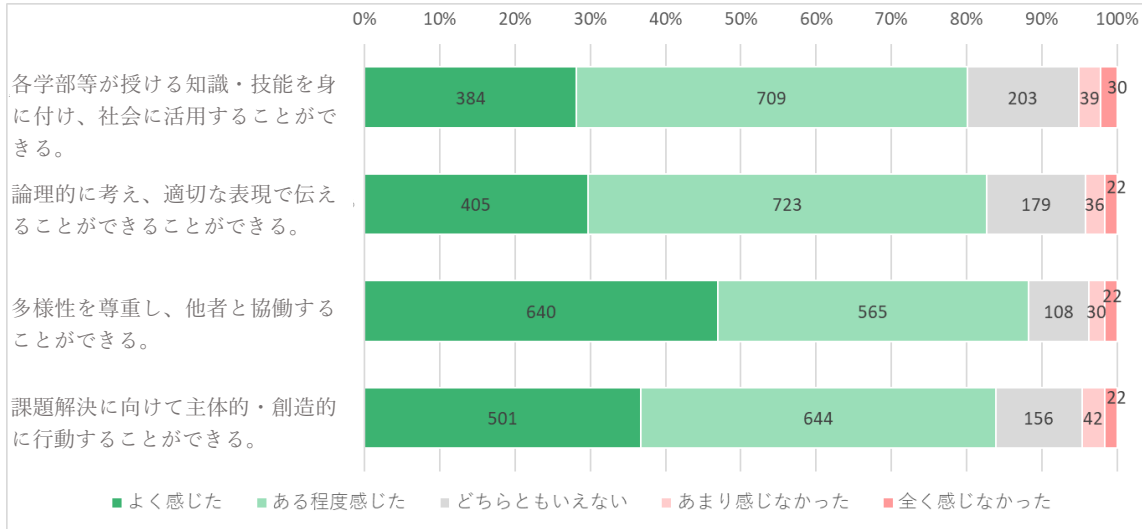
「学修者本位」を実現するための DX

i. DX を活用した学生支援計画

2023 年度の学生生活アンケートでは、本学の全学ディプロマ・ポリシー（以下、DP）に即した伸長・向上実感について確認をしました。創価大学の全学 DP は、「各学部等が授ける知識・技能を身に付け、社会に活用することができる」、「論理的に考え、適切な表現で伝えることができる」、「多様性を尊重し、他者と協働することができる」、「課題解決に向けて主体的・創造的に行動することができる」の 4 項目で構成されています。2023 年度の学生生活アンケートでは、これらの 4 項目に対して「伸長・成長を実感することができましたか？」との設問にて、「よく感じた」、「ある程度感じた」、「どちらともいえない」、「あまり感じなかった」、「全く感じなかった」の 5 段階で回答するよう設計しました。その結果、全学 DP の 4 項目いずれも「よく感じた」「ある程度感じた」との回答合計が 8 割を超える結果となりました。（図 1）

図 1 2023 年度 学生生活アンケート

「あなたは、大学の授業や課外活動を通じて、本学のディプロマ・ポリシーに掲げる以下の内容について、伸長・向上を実感できましたか」(n=1365)



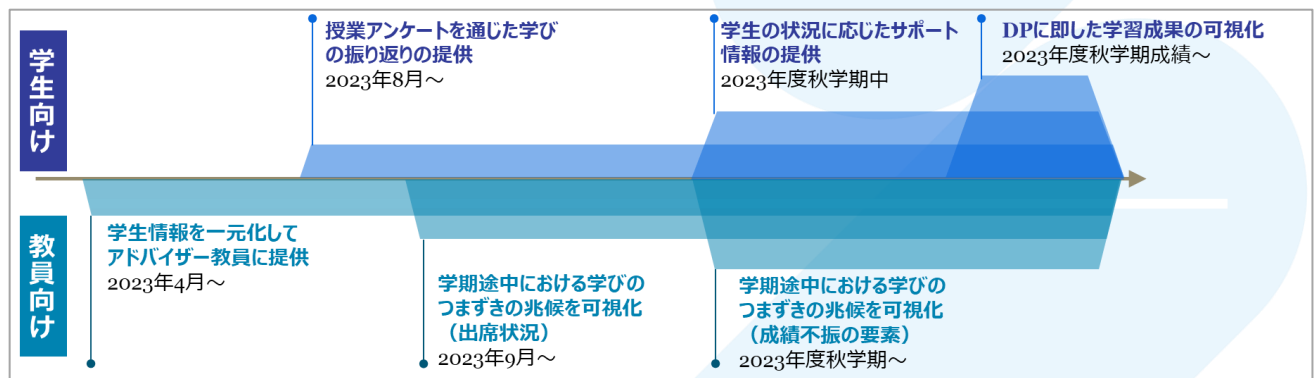
本学は理念として掲げる「学生第一」の学生支援を実現するべく、2023 年度に「DX を活用した学生支援計画」を策定しました。(図 2) 本計画では、IT プラットフォームを活用し、学生および教員それぞれの視点に即したアプローチの取り組みを推進することとしており、上記の学生生活アンケートの結果についても、その取り組みの効果であると考えています。そこで、今号の学びのレポートは「DX を活用した学生支援計画」の取り組み内容についてご紹介します。なお、本計画では、取り組みの実施に係る具体的な数値目標である「アウトプット指標」と、取組・活動全体の成果としての達成度を測定する数値目標である「アウトカム指標」を下記のように設定しました。

アウトプット指標：専任教員¹による学生の学修状況確認機能の利用率 9 割以上。

アウトカム指標：授業アンケートにてラーニング・アウトカムズの伸長・成長を実感している学生が 3/4 以上。

各セメスタ GPA2.0 未満の学生比率 10%以下² (通学課程のみ)。

図 2 DX を活用した学生支援計画 (取り組みの概観)



¹ 通学課程についてはアドバイザー教員、通信課程については科目を担当する教員を対象

² 割合は対在籍生比率

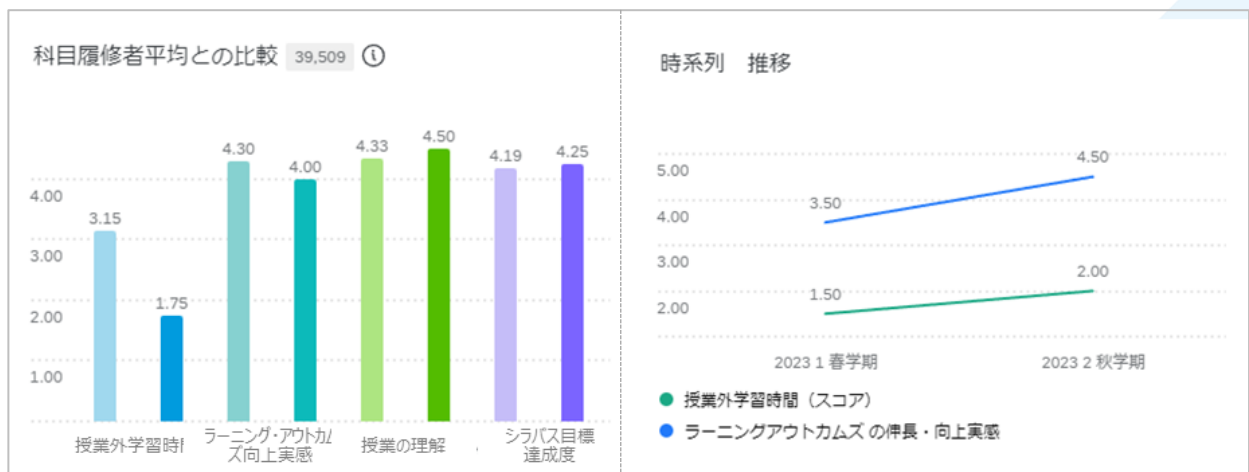
ii. 多面的な振り返りによる学生の成長実感を醸成

それでは、ここから「DX を活用した学生支援計画」における具体的な内容を見ていきましょう。まず、「学生視点の取り組み」としては、学生が自ら学びを多面的に振り返ることで自身の成長実感を醸成しながら、主体性のある学びへと促すことを目指しています。

そこで、成績評価以外の観点から自身の学びを振り返る手段として、毎学期に実施している授業アンケートの回答結果を直感的にわかりやすく可視化したフィードバックを提供しました。このフィードバックにおいては、「全学的な平均」との比較ではなく、「科目履修者の平均」との比較を提示することで学生が当事者意識を持ちながら可視化された情報を受け止めることができるよう工夫をしています。

また、学生が自身の学びの振り返りに活用できるよう、学期ごとの時系列で授業外学習時間やラーニング・アウトカムズの伸長・向上実感を確認できるようにしています。(図3 授業アンケート 学生向けダッシュボード (イメージ抜粋))

図3 授業アンケート 学生向けダッシュボード (イメージ抜粋)



なお、学生が自身の回答結果を他の学生と比較して一喜一憂することが無いよう、授業アンケート結果の活用方法を案内している動画では、自分の回答スコアの高低に着目するのではなく、各科目の成績評価とも照らし合わせることを伝えています。そして、成績という客観評価と授業アンケートによる自己評価との間にギャップがあるようであれば、何か学び方に工夫の余地があるかもしれないので、自分を担当しているアドバイザー教員へ相談することや、本学で提供している学習サービスを利用することを促しています。

この授業アンケートの回答結果を活用して、例えば授業外学習時間が比較的長いにも関わらず成長実感があまり伸びていない学生に向けて学習支援イベントの案内を通知するなどの取り組みも 2023 年度には試行しました。さらに、学修成果の可視化として各学部等の DP におけるラーニング・アウトカムズに則したスコアを学生に提示する機能も構築しました。これまでの科目ごとの成績評価だけでなく、各学部等で養成を目指す人材に即してどのような成長を経ているのか、学生が自覚することを促し、学びのステップに繋げていくことを目指していきます。

iii. 統合的な学生情報にもとづくプロアクティブなサポート

次に「DXを活用した学生支援計画」における2つ目の取り組みである「教員視点の取り組み」について紹介します。本学では、学生の履修科目ごとの出欠状況や授業で課せられた課題の提出受付開始日・締切日を通知して学生をガイドするなどITプラットフォームによる学生情報を活用した学習サポートを行ってきました。それに加えて、適時性のある情報提供によって、教員がプロアクティブに学生をサポートすることを目指しています。

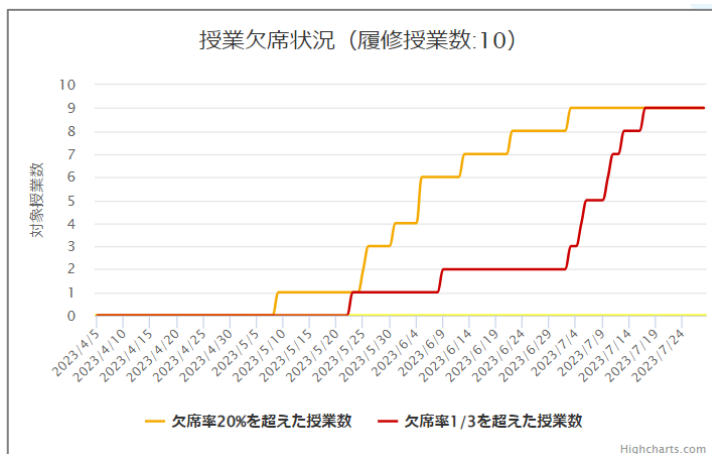
本学は通学課程の卒業要件に通算 GPA2.0 以上を求めており、毎学期のセメスタ GPA が 2.0 未満の学生を対象にアドバイザー教員等による面談を実施しています。その上で、学生の出席状況や教員との面談状況などの成績不振に関連する要素に関する情報を一元化して、アドバイザー教員と学生の面談がより一層効果的なものになるよう情報提供を開始しました。(図 4)

図 4 教員向け学生情報の一元化 (イメージ)



このような情報提供を実施しているなか、教員から「面談は成績にもとづいて行っているが、学期中につまずいている学生を支援することはできないか」との声が挙がりました。そこで、学生の学びのつまずき状況に関して適時性のある情報提供を目指し、出席状況について予め定めた欠席割合を超えた履修科目の数を階段状に示す機能を提供。学生の学習状況についてアドバイザー教員が学期中に把握し、成績が確定する前の段階で学生をサポートできるようにしました。(図 5)

図 5 学生の欠席状況のタイムリーな提供 (イメージ)



iv. 一人ひとりの学生に応じた学びのサポートを目指して

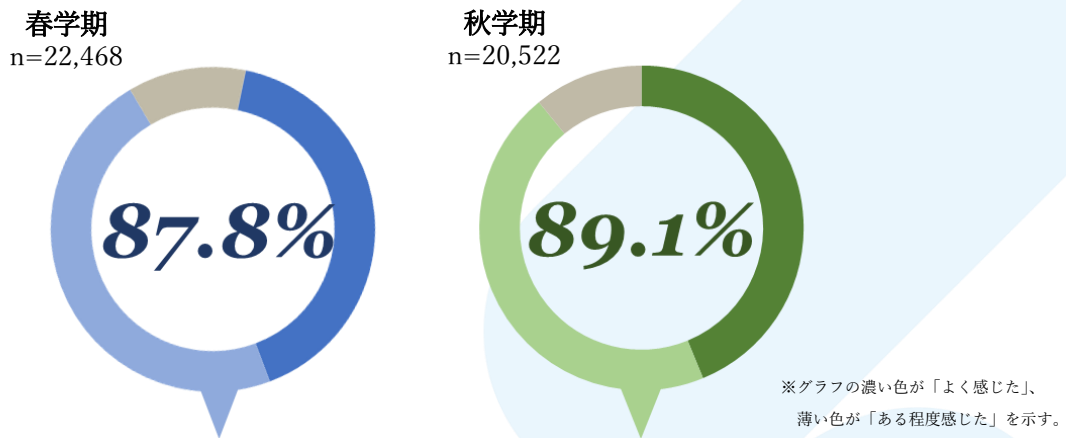
このように 2023 年度は「DX を活用した学生支援計画」の取り組みを推進してきましたが、ここで、本計画で設定した「アウトプット指標」および「アウトカム指標」の達成状況について見ていきたいと思ひます。

まず、アウトプット指標です。上述の通り、学生の学修状況を確認する IT プラットフォームの活用について、専任教員³の利用率 9 割を目指して取り組んできました。2023 年度の利用率は 83.9%⁴に留まる結果となりましたが、より効果的な学生のサポートを実現するための情報共有を進めていくとともに、教員への周知・啓蒙に取り組んでいきます。

次に、アウトカム指標です。1 つ目の数値目標として、授業アンケートにてラーニング・アウトカムズの伸長・成長を実感している学生が 3/4 以上であることを目指しました。そして、2023 年度に実施した授業アンケートで「あなたはこの授業を通じて、シラバスで設定されたラーニング・アウトカムズの伸長・向上を実感できましたか？」との設問において、「よく感じた」、「ある程度感じた」と回答した学生の割合が春学期、および秋学期それぞれ 8 割を超えて 9 割⁵に迫る結果となり、目標を達成することができました。(図 6)

図 6 2023 年度「授業アンケート」

「あなたはこの授業を通じて、シラバスで設定されたラーニング・アウトカムズの伸長・向上を実感できましたか？」における「よく感じた」、「ある程度感じた」の回答割合



さらに 2 つ目の数値目標として、卒業要件に通算 GPA2.0 以上を求めている通学課程においては、セメスタ GPA2.0 未満の学生比率 10%以下⁶を掲げました。こちらについては、2023 年度春学期は 10.2%と目標達成に至りませんでした。2023 年度秋学期は 8.7%で目標を達成することができました。

³ 通学課程についてはアドバイザー教員、通信課程については科目を担当する教員を対象

⁴ 2024 年 3 月 13 日時点。通学課程、通信課程の教員数延べ人数で算定

⁵ 春学期は通学課程 春セメスタと通信課程 春期スクーリング、夏期スクーリングでのアンケートを合算。秋学期は通学課程 秋セメスタと通信課程 秋期スクーリングでのアンケートを合算。

⁶ 割合は対在籍生比率

2020年1月、中央教育審議会大学分科会によって「教学マネジメント指針」が取りまとめられました。この指針では、学修者本位の教育の実現を図るため、「自律した学修者」を育成する取り組みの一環として、「学修成果の把握・可視化」によって一人一人の学生が自らの学修成果を自覚し、エビデンスと共に説明できるようにすることが示されています。

ここまで紹介してきた本学の「DXを活用した学生支援計画」は、まさに「学修成果の把握・可視化」を具体的に実現した取り組みと考えています。その上で、全ての学生が自発的に可視化された学修成果にもとづいた学びの振り返りを行い、自ら次の行動を起こしていけるとは限りません。また、近年は様々な背景を持った学生の多様化も進んでいます。「学生第一」を理念として掲げる本学は、「把握・可視化」するだけでなく、「自律した学修者」に成長するまでの「一人ひとりの学生に応じた学びのサポート」の実現を目指していきます。

v. 本学が提供する学生に応じたサポート

ここで本学が提供している学生の状況に応じたサポートの代表的なものを紹介します。今後はDXの活用によって、これらのサポートを有機的に連携していくことを目指していきます。

アドバイザー教員制度

充実した大学生生活を過ごし卒業できるよう、学生一人ひとりを対象に、学部ごとに専任教員が担当アドバイザーとなり、親身になって学業・修学指導を行う制度です。アドバイザーは学部のカリキュラムを踏まえ、GPAや卒業要件充足の状況に基づいて、履修計画や各種資格の取得など、学習を進めるにあたっての指導や相談を行います。

本学の多くの学部では、数名から十数名の学生を一人のアドバイザーが担当します。アドバイザーは1～2年生を担当するアカデミック・アドバイザーと、3年生以上を担当するゼミの指導教員に分かれますが、学生のニーズに応じた個別指導を行います。

障害学生支援室

本学では2021年3月より障害学生支援室を開室いたしました。障害等の理由により修学上の支援が必要な学生のための窓口です。支援が必要な学生が障害のない学生と同等の教育・研究の機会が得られることができるよう、相談員（臨床心理士や精神保健福祉士）を配置し、学内外の関係部署等と連携して、修学上の支援を実施いたします。

総合学習支援センター（Student Performance Acceleration Center）

主に下記の3つを通じて、学生たちが主体的に活動する場の提供、活動を効果的に進めるための情報やスキルの提供、活動を豊かにする仲間作りの応援をトータルに行う総合的な学習支援を提供しています。

- ① ラーニングコモンズ（SPACE）の環境整備や関係部署との協働を含む運営。
- ② レポート作成や数学の個別チュータリング、ノートのとり方やスケジュール管理などの学習セミナー、カウンター（Help desk）での学習相談といった課外の学習支援サービスの提供。
- ③ シェアタイムと呼ばれる学生同士の学びの交流や仲間作りを支援するピアサポートの企画・運営。



創価大学
大学評価・IR 事務室